

平成30年度
学校関係者評価 報告書

評価期間

自：平成30年4月1日

至：平成31年3月31日

平成31年4月15日

専門学校日本デザイナー芸術学院

【学校関係者評価委員会】

委員長（教育関係者）鈴木 康弘 [学校法人恭敬学園 北海道芸術高等学校 法人本部長]

委員（教育関係者）福谷 美佐子 [愛知県認可 愛知芸術高等専修学校 副校長]

委員（業界関係者）村松 誠 [一般社団法人日本学芸振興會 事務局長]

委員（業界関係者）近藤 友加里 [株式会社J Sコーポレーション中部支社]

委員（卒業生代表）小澤 賢之助 [株式会社コムデザインラボ グラフィックデザイナー]

| | | |
|-------|--------|-------------------|
| 学園事務局 | 成 光雄 | (学校法人敬道学園 学校長) |
| | 大本 周平 | (学校法人敬道学園 事務長) |
| | 山内 雄司 | (学校法人敬道学園 教務課教務長) |
| | 下雅意 善規 | (学校法人敬道学園 教務課所属) |
| | 石川 優子 | (学校法人敬道学園 教務課所属) |
| | 小原 桃子 | (学校法人敬道学園 教務課所属) |

点検項目の評価結果

自己点検・評価結果（4・・・適切 3・・・ほぼ適切 2・・・やや不適切 1・・・不適切）を基に、学校関係者評価委員会で点検・評価を行った。

目 次

| | |
|----------------------------------|---------|
| 学校の現況 | P 3 |
| 1. 学校の教育目的 | P 4 |
| 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画 … | P 4 |
| 3. 点検項目の評価結果 | P 5～13 |
| (1) 教育理念 | P 5 |
| (2) 学校運営 | P 6 |
| (3) 教育活動 | P 7 |
| (4) 教育成果 | P 8 |
| (5) 学生支援 | P 9 |
| (6) 施設整備 | P 10 |
| (7) 学生募集 | P 10・11 |
| (8) 財務 | P 11 |
| (9) 法令順守 | P 12 |
| (10) 社会貢献 | P 12 |
| (11) 国際交流 | P 13 |
| 4. 自己評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果 | P 13 |
| (1) 教育目標 | P 13 |
| (2) 財務評価 | P 13 |
| (3) 一般的評価 | P 13 |

学校の現況

(1) 学校名

学校法人敬道学園 専門学校日本デザイナー芸術学院

(2) 所在地

愛知県名古屋市中村区黄金通1-16

(3) 沿革

1967：日本デザイナー学院名古屋校創立 学院長 山名文夫

1979：専門学校日本デザイナー学院認可 校長 狭間寿郎就任

1981：校長 横田真利就任

1984：校長 岡本滋夫就任

1987：学院創立20周年記念「高校生デザイン・写真コンペティション」

(現高校生グランプリ) 開催

1990：海外研修旅行(パリ・ニューヨーク)開始

1991：学校法人名古屋呉学園設立 中村区役所校舎移転 校長 中井幸一就任

1994：専門士推薦

1997：創立30周年記念 第1回OB展開催(国際デザインセンター 4階ギャラリー)

1998：専門学校日本デザイナー芸術学院に校名変更

2000：OB2000「DIGITAL WORLD」開催

2002：創立35周年記念記念行事開催(国際デザインセンター 3階ホール・4階ギャラリー)

中国四川大学芸術学部姉妹校提

2003：世界グラフィックデザイン会議 ICOGRADA出展

2007：創立40周年記念「OB40展」開催 校長 田邊雅一就任

2011：校長 本山星求就任

姉妹校・専門学校日本マンガ芸術学院創立 校長 成光雄就任

2014：専門学校日本デザイナー芸術学院校長 成光雄就任(両校兼務)

2015：学校法人敬道学園に学園名称変更

2018：保育士養成スクールこども芸術学院創立

(豊岡短期大学通信教育部こども学科の学習サポート校)

1. 学校の教育目的

教育理念

本学は、日本の創作文化やデザインに誇りを持つと共に、常に先端を視野に入れた実社会で通用する真の創造力を健全に育成することを目的とする。

また、優れた専門性を持ち、時代のニーズを的確に反映できる実力と人間性を兼ね備えた人材の育成をおこなう。

本学で学ぶ学生たちに活力ある教育、学習環境を提供し、表現・創作活動の支援体制作りをおこなう。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 1) デザイン業界や社会のニーズを意識したコース編成やカリキュラム作り。
- 2) 社会参画意識の啓蒙とIT時代にふさわしいコミュニケーション、自立心、人格形成の支援。

点検項目の評価結果

自己点検・評価結果（4・・・適切 3・・・ほぼ適切 2・・・やや不適切 1・・・不適切）を基に、学校関係者評価委員会で点検・評価を行った。

3. 自己点検・評価項目の結果

(1) 教育理念に関すること

| 評価項目 | | 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1 |
|------|--|------------------------------|
| 1-1 | 教育理念・教育目標は示されているか | ④ 3 2 1 |
| 1-2 | 学校の特色は示されているか | ④ 3 2 1 |
| 1-3 | 学校の将来構想は示されているか | 4 ③ 2 1 |
| 1-4 | 学校の理念・目的・特色などが学生・保護者に周知されているか | 4 ③ 2 1 |
| 1-5 | 各科の教育目標、人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 4 ③ 2 1 |

日本デザイナー芸術学院は、2017年に創立50周年を迎えたことを機に、さらなる飛躍を目指して、学院のシンボルマークを一新し、学校法人名を「敬道学園」にあらためた。教育においては基本技術修得の徹底と実践主義を超える『超・実践主義』を再確認するなど、あらゆる面から次世代への足固めを進めており、その成果は着実に学生の力になっている。近年は、デザイン業界や社会の多様化に伴い、ニーズに沿ったコース設定や授業を開発する必要がある。関係業界に対応したコース編成や教育手段を今後も模索し、大きく変化する社会に通用する新時代のクリエイターの育成を目指している。学校の理念・特色は入学前の体験入学会・学校案内書・オフィシャルサイトに記載し周知している。学生に対しては学校要覧に明記し、入学後のオリエンテーションにおいて周知している。

●学校関係者評価委員会コメント・質疑

※「教育理念に関すること」については評価者から妥当と評価され、ご意見はありませんでした。

(2) 学校運営に関すること

| 評価項目 | | 適切…4 | ほぼ適切…3 | やや不適切…2 | 不適切…1 |
|------|--------------------------------|------|--------|---------|-------|
| 2-1 | 運営方針は定められているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2-2 | 運営方針に沿った事業計画が策定されているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2-3 | 運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2-4 | 人事や給与での処遇に関する制度は整備されているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2-5 | 意思決定システムは確立されているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2-6 | 業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2-7 | 教育活動に関する情報公開が適切になされているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2-8 | 情報システム等による業務の効率化が図られているか | 4 | 3 | 2 | 1 |

運営組織・意思決定機関である理事会、評議員会を定期・不定期開催し、事業計画も学校運営に沿って策定され理事会、評議員会において承認を得ている。人事考課制度においては、年度初めに各部署・コースでの目標を設定し達成度・結果を踏まえて人事考課を行っている。この人事考課に基づき昇給および賞与を決定している。職員採用、試用期間、懲戒処分、解雇基準、昇格降格制度については就業規則で定めている。各種手当は、給与規定で定めている。意思決定システムについては、各部署の責任者が、その責任範囲に該当する案件については意思決定権限を持つ。自らの責任範囲を超える案件は上申して上司の判断を仰ぐ。教育活動に関する情報公開については、オフィシャルサイトや印刷物などを発行し推進していく。「働き方改革」を意識した労働環境の構築にも注力し、情報システムを利用するなど常に業務の効率化を図っている。

●学校関係者評価委員会コメント・質疑

※「学校運営に関すること」については評価者から妥当と評価され、ご意見はありませんでした。

(3) 教育活動に関すること

| 評価項目 | | 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1 |
|------|---|------------------------------|
| 3-1 | 教育理念等に沿った教育課程も編成・実施方針等が策定されているか | ④ 3 2 1 |
| 3-2 | カリキュラムは業界の人材ニーズに対応しているか | 4 ③ 2 1 |
| 3-3 | 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 4 ③ 2 1 |
| 3-4 | キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているかに反映されているか | 4 ③ 2 1 |
| 3-5 | 定期的カリキュラムの見直しはなされているか | ④ 3 2 1 |
| 3-6 | 関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか | 4 ③ 2 1 |
| 3-7 | 成績評価の基準は明確になっているか | ④ 3 2 1 |
| 3-8 | 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4 ③ 2 1 |
| 3-9 | 授業評価は実施されているか | 4 ③ 2 1 |
| 3-10 | 資格取得等に関する指導体制やカリキュラムはできているか | 4 ③ 2 1 |
| 3-11 | 人材育成目標の達成に向けて授業を行う講師を確保しているか | 4 ③ 2 1 |
| 3-12 | 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか | 4 ③ 2 1 |
| 3-13 | 関連分野における先端的な知識・技能等を取得するための研修や教員の指導力育成や向上のための取組が行われているか | 4 ③ 2 1 |
| 3-14 | 職員の能力開発のための研修等が行われているか | 4 ③ 2 1 |

学生の就職意識が多様化している状況を踏まえ、社会での実践を意識したキャリア教育を重視している。卒業時に希望通りの就職ができるよう『キャリアデザインプログラム』を導入し、学生一人ひとりへのきめ細かいサポートを講じ1年次から進路対策を行っている。業界の前線を知ると共に将来を考える機会となる研修授業、インターンシップ、産学協同プロジェクト、企業説明会などを複合的に組み合わせ、就職活動を支援している。また、業界のニーズに対応できるよう関連分野の企業・業界団体と連携して実践的な課題を取り入れ、カリキュラムに反映させている。また定期的カリキュラムの見直しを行い、より実践的な職業教育に努めている。また、2019年度からは午前の時間を中心に授業を行う3年制コースを開設し、午後の時間を自由に活用できる新しい学びの環境を提供している。

●学校関係者評価委員会コメント・質疑

※「教育活動に関すること」については評価者から妥当と評価され、以下のご意見がありました。

◇デザイン業界においては、転職を機にキャリアアップを図ることも多い。デザインの技能を活かせる分野は多岐にわたるので、幅広い分野・職種について学生に情報提供をしてほしい。（小澤委員）
・キャリアデザインの内容や質を工夫し、さらに職業意識を高める。1年次より卒業後の方向性を意識するよう指導に努め、進路決定率100%を目指す。（事務局）

(4) 教育成果に関すること

| 評価項目 | | 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1 |
|------|---|------------------------------|
| 4-1 | 就職率を向上させるための施策は図られているか | 4 ③ 2 1 |
| 4-2 | 資格取得の向上が図られているか | 4 ③ 2 1 |
| 4-3 | 退学者を減らすための施策は図られているか | 4 ③ 2 1 |
| 4-4 | 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | ④ 3 2 1 |
| 4-5 | 卒業後のキャリア形成への効果を把握し 学校の教育活動の改善に活用されているか | 4 ③ 2 1 |

就職を意識しつつも具体的な行動に移すまでが遅い学生への対応が課題となっており、コース担当、副担当と担当者を複数にすることでサポートを徹底している。2018年度は学内での合同企業説明会や就職対策講座の実施を増やし、それにより多くの学生が内定を得ることができた。欠席者に対してはクラス担任より早期に連絡、個別カウンセリングを行い、保護者とも連携を取り退学率の低減を図っている。また、オフィシャルサイト、印刷物、公式 SNS などにおいて在学生・卒業生の受賞実績、作品展などの案内を定期的に行っている。

●学校関係者評価委員会コメント・質疑

※「教育成果に関すること」については評価者から妥当と評価され、以下のご意見がありました。

◇就職した卒業生の職場定着率については？（鈴木委員長）

・社会、会社側の就労意識が変化とともに、職場環境が改善されている企業が増えている。卒業生の離職率は低下している。但し、スキルアップのために同業種内での転職はある。（事務局）

◇デザイン業界においては、様々な仕事に携わり視野を広げたいと考える方も多く、転職はプラスに捉えられる傾向にある。（小澤委員）

(5) 学生支援に関すること

| 評価項目 | | 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1 | | | |
|------|---|------------------------------|---|---|---|
| 5-1 | 就職に関する支援体制は整っているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5-2 | 学生相談などの支援体制はどうか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5-3 | 学生への奨学金等の経済的支援はどうか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5-4 | 学生の健康管理はどうか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5-5 | 課外活動に関する支援体制は整備されているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5-6 | 学生寮等の支援体制は整備されているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5-7 | 保護者と適切に連携しているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5-8 | 卒業生への支援体制はあるか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5-9 | 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5-10 | 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 4 | 3 | 2 | 1 |

学生に対する経済的な支援として、AO 奨学金、オーバーエイジ奨学金、留学生特別奨学金など学費を減免する本校独自のサポート制度を設け支援を行っている。その他公的制度として、日本学生支援機構奨学金制度、日本政策金融公庫「国の教育ローン」を適宜紹介・斡旋している。学生健康管理について、学校保健安全法に基づく定期健康診断を毎年4月に実施している。一人暮らしの住まいは、学生専用寮・マンション管理会社と提携して学生に紹介し、管理会社との連携により生活面のサポートも行っている。状況に応じて学生個々の様子を保護者に連絡、支援を依頼するなど綿密に情報交換をしている。卒業後においても、転職や独立の相談などを受けアドバイスを行っている。高等学校等と連携したキャリア教育・職業教育の取り組みとして、実技講習会、出張講座、講師派遣などを実施している。

●学校関係者評価委員会コメント・質疑

※「学生支援に関すること」については評価者から妥当と評価され、以下のご意見がありました。

◇社会人を対象とした支援については？（近藤委員）

・社会人の学び直し・再進学をサポートする制度として、年齢に応じて学費を減免するオーバーエイジ奨学金制度を設けている。自力で学費を負担する学生が多いため、個別の学費相談でサポートしている。目的意識を明確した社会人が入学し、クラスの中で模範的な存在となることも多く、他の学生にも良い影響を与えている。（事務局）

(6) 施設設備に関すること

| 評価項目 | | 適切… 4 | ほぼ適切… 3 | やや不適切… 2 | 不適切… 1 |
|------|--|-------|---------|----------|--------|
| 6-1 | 施設・設備はカリキュラムに対応出来ているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6-2 | 学内外の実習設備、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6-3 | 防災体制は整っているか | 4 | 3 | 2 | 1 |

コンピュータールーム (Windows、Macintosh)、アート実習室、撮影スタジオ、ライブスタジオ、展示ギャラリー、収録スタジオなど業界水準に対応できる実習設備を整えている。施設・設備は授業外の時間でも学生に開放し、作品制作や自主練習に打ち込める環境づくりをしている。

防災対策については、施設の法定消防設備点検、建築設備点検を行っている。災害時の帰宅困難者への支援として、保存食糧・保存飲料水・簡易トイレ・簡易寝具等の災害備蓄品を常備するとともに学生・教職員への安全対策の徹底を図っている。

また、今年度は全館 LED 照明への移行、トイレの改善整備を行った。

●学校関係者評価委員会コメント・質疑

※「施設設備に関すること」については評価者から妥当と評価され、ご意見はありませんでした。

(7) 学生募集と受け入れに関すること

| 評価項目 | | 適切… 4 | ほぼ適切… 3 | やや不適切… 2 | 不適切… 1 |
|------|--------------------|-------|---------|----------|--------|
| 7-1 | 学生募集活動は適正か | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7-2 | 学生募集に教育成果は反映されているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7-3 | 入学選考の時期・基準・方法は適正か | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7-4 | 納付金は妥当なものとなっているか | 4 | 3 | 2 | 1 |

本校の学生募集活動は、各種進学情報誌の掲載、オフィシャルサイトや SNS を活用した情報発信に加え、高校内での進路ガイダンス、各都市の会場で開催される進学説明会等に参加し行っている。また、高校や日本語学校などに対して卒業生の活躍や就職状況などを報告し、学校間の信頼関係の構築に努めている。時代や社会のニーズに合わせたコース編成となるよう毎年検討を行い、2019 年度より 3 年制イラストデザインコース・アートデザインコースを開設した。また、任意の入学者特典 (AO 特典) として夜間講座を無償開放し学習のサポートを充実させた。

毎月、体験入学や学校説明会を実施し、希望に合ったコース選択や将来の職業理解ができるよう、授業体験や個別相談などを行っている。就職の状況、コンペ受賞など在学生・卒業生の実績を把握し、入学案内書やオフィシャルサイトを通じて情報の発信に努めている。各学科の学習内容や成果については、体験入学や学校説明会での説明と資料配布を行い、学生募集に教育成果を反映させている。入学選考・時期・基準・方法は、加盟する愛知県専修学校各種学校連合会での取り決めに基づき、適正に行っている。一般入学・推薦入学に加え、AO 入学・社会人入学・留学生入学などの選考方法を採用し適正に実施している。納付金額については、本校が提供する教育内容、施設から算出して、同分野他校との比較検討を行い妥当な金額であると認識している。学費・諸費用の総額と納入方法、奨学金制度は学生募集要項とオフィシャルサイトに明記している。

●学校関係者評価委員会コメント・質疑

※「学生募集と受け入れに関すること」については評価者から妥当と評価され、以下のご意見がありました。

◇夜間講座無償開放の反響は？（村松委員）

任意参加であるが、AO 入学合格者の3人に一人が受講を希望した。

受講希望者の大半は、昼間部で選択しているコースとは別の内容の講座を選択している（事務局）

◇昼と夜とで複数の分野を学べる仕組みであり良い。学生の表現力の幅が広がり、就職活動や将来の仕事内容にも繋がるだろう。

・志願者のニーズを踏まえ、時代にあった学生募集活動と魅力あるコンテンツづくりに今後も注力する。（事務局）

（8）財務に関すること

| 評価項目 | | 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1 | | | |
|------|--------------------|------------------------------|---|---|---|
| 8-1 | 中長期的に財務基盤はどうか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8-2 | 予算・収支計画は有効かつ妥当か | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8-3 | 会計監査は適正に行われているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8-4 | 財務情報公開の体制整備はできているか | 4 | 3 | 2 | 1 |

学校法人として、教育活動の充実および持続性が必要である。教育環境・施設・設備の整備などで経費支出があるが、経費全体の見直しを行い財務基盤の強化に努めている。

一定数の入学者の確保と退学者を減少させることにより、より高水準の財政基盤の確保を目指している。資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表・財産目録の主要な財務諸表を参考とし、次年度以降の収支計画予算を編成している。年度予算は、本校の目的・目標及び事業計画に鑑みて、有効かつ妥当なものである。本校では公認会計士（監査法人）による会計調査を受けており、私立学校法および寄附行為にもとづき、選任された監事が財務会計監査を実施している。計算書類（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、財産目録）を事業報告書と共に理事会に提出し承認を得ている。財務情報の公開をオフィシャルサイトにて行っている。

●学校関係者評価委員会コメント・質疑

※「財務に関すること」については評価者から妥当と評価され、ご意見はありませんでした。

(9) 法令順守に関すること

| 評価項目 | | 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1 | | | |
|------|-----------------------------|------------------------------|---|---|---|
| 9-1 | 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9-2 | 個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9-3 | 自己評価の実施と問題点について改善に努めているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9-4 | 自己評価結果を公表しているか | 4 | 3 | 2 | 1 |

本校は関連法規、国や地方自治体からの改正等にも速やかに対応して事務処理を行った上で適切な運用を行い、法令や設置基準を遵守すべく最善の努力をしている。個人情報をの保護に対しては、学生に配布する「学校要覧」に個人情報の取り扱いについて記載し、入学時のオリエンテーションで周知している。教職員には個人情報の取り扱いに関して細心の注意を払うよう指導している。学園の保有する個人情報を委託業者に取り扱わせる際には、個人情報保護に関する内容を文書化している。自己評価は毎年度実施。オフィシャルサイトに公表している。

●学校関係者評価委員会コメント・質疑

※「法令順守に関すること」については評価者から妥当と評価され、ご意見はありませんでした。

(10) 社会貢献に関すること

| 評価項目 | | 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1 | | | |
|------|---------------------------------|------------------------------|---|---|---|
| 10-1 | 教育資源や設備を活用しての社会貢献はなされているか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10-2 | 学生のボランティア活動に対する支援はどうか | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10-3 | 地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか | 4 | 3 | 2 | 1 |

地元中高生の職業体験の受け入れや、有名デザイナーやイラストレーターの特別授業を一般にも公開したり、産学協同プロジェクトを通し、地元企業との取り組みを実現し定期的を開催している。高校生を対象としたデザイン・イラストコンペを通じて、若者の美術教育に貢献している。教育訓練等の開催はなかったので、今後の取り組みを検討する。

●学校関係者評価委員会コメント・質疑

※「社会貢献に関すること」については評価者から妥当と評価され、ご意見はありませんでした。

(11) 国際交流に関すること

| 評価項目 | | 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1 |
|------|--------------------------------------|------------------------------|
| 11-1 | 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか | 4 (3) 2 1 |
| 11-2 | 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか | (4) 3 2 1 |
| 11-3 | 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか | 4 (3) 2 1 |
| 11-4 | 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか | 4 (3) 2 1 |

現状留学生は極少数であるが、今後受け入れの可能性や対応力を研究していく。留学希望者を対象とした会場ガイダンスや日本語学校内での進学相談会へも参加していく。また、必要に応じて留学生に対する短期授業の受け入れなども検討する。学習成果については、海外研修授業において現地職業訓練学校との交流を行い、共同デザイン授業や学生の作品に対する評価を受けている。

●学校関係者評価委員会コメント・質疑

※「法令順守に関すること」については評価者から妥当と評価され、ご意見はありませんでした。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(1) 教育目標

産学協同や時代のニーズに沿ったカリキュラム、教育メニューを構想している。
変化と進化が必要なもの、普遍的な基礎教育をバランスよく配置する必要がある。
卒業生とのネットワーク、支援、再就職紹介も重視して卒業生動向や実績の把握に努める。
変化の激しい分野だけに保護者を含むステークホルダーへの学院理解や業界理解を高める必要がある。

(2) 財務評価

平成30年度の学生募集結果は前年より増加。新しいコース編成を見据えた投資計画も含めて学校運営上支障なく運営できた。

(3) 一般的評価

中部・中京地区は、産業分野で多くの世界企業が拠点を構え、それに伴って大きな商業圏、経済圏が存在し、それに関わる多数の商業デザイナーやクリエイターが活躍している地域である。
本校は名古屋で50年以上の歴史を持ち、この地域においてデザイナーやクリエイターを目指す多くの若者や人々を受け入れ、デザイン、写真、イラストレーション、マンガ、声優タレントなどの分野で多くのプロを輩出してきた。
現在では、専門学校日本デザイナー芸術学院と専門学校日本マンガ芸術学院として専門分野をより細分化しながらも、クリエイティブを共有する2つの学院が連携・協調し、業界を広く見渡しつつ時代に合わせた質の高いカリキュラムを展開している。